

これから活躍する君へのメッセージ

# 新入社員への手紙



末広都市建設㈱ 工事部  
山口 弘記

新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。いま皆さんは、見るのも聞くのも初めてのことばかりで、きっと落ち着かない気持ちでいっぱいだと思います。今回、そういった皆さんのために業界の先輩方から心のこもったメッセージをいただきました。これから社会で、あるいは会社で大きく羽ばたくために、何度も読み返していただけたらと思います。

## 入社前の気持ち

入社した頃は、土木の会社ってどんなことをやるのか不安がいっぱいあって、上司等との人間関係がうまくいくのか、仕事を覚えてやっていけるのかとか、いろいろ考えました。

ところが、会社に入ってみると、先輩から上司までいろいろと丁寧に教えてくれるし、話してみると面白い方が多かったので助かりました。職人さんで顔の怖い人たちもいたのですが、これもよく話をしてみると意外に仕事のことなどを教えてくれたりしました。

これは自分の経験からですが、怖そうな顔をした人ほど思ったより優しくかったりしますので、いろんな人といろんな話をしてみるといいですよ。

## 入社した頃の失敗談

工事が終わると竣工検査というものがあるのですが、上司と一緒に完成させたある工事の竣工検査で、失敗をしてしまいました。

検査の当日、朝から上司と一緒に検査の準備を進めていたのですが、途中で足りないものを思い出し、買出しに出かけました。ところが、なにぶん知らない土地ですから、買いたいものが見つからないばかりか、おまけに迷ってしまい、検査の時間から10分ほど遅れて現場に戻ってしまいました。

検査は無事に終了したのですが、時間に遅れて戻ったことはかなり恥ずかしく、それからはなるべく早く動くことを心がけるようになりました。

## 自分なりのやりがい

施工管理の仕事は、大きな責任とともに、大きなやりがいを感ずります。

たとえば、一口に「道路をつくる」といっても、立地条件、周囲の環境、季節、工期、携わる職人によって状況が大きく変わってくるので、綿密な計画、段取り、打合せ、指示、確認が非常に重要になってきます。

自分の判断の1つひとつが現場の施工状況に影響を与え、その結果としての道路の出来映えが良くも悪くもなるので、経験・知識を生かし、知恵を絞って日々の業務にあたらなければなりません。

毎日、苦勞の連続ですが、それを1つひとつクリアして、道路が完成したときの充実感はあることながら、周辺の住民の方に喜んでもらえるということは、言葉にできないほどうれしいものです。たとえば、「道をきれいにしてくれてありがとう」とか「広くなって通りやすくなったよ」などと、どこに行っても言われるわけではないけれど、そう言ってもらえると、大変だったけどやってよかったなと思います。

新入社員の皆さんも、自分の居場所ややりがいを自分なりに見つけるつもりで仕事をしていくと、きっといいと思います。皆さんのガンバリに期待しています。

やりがいは自分でつくるもの



佐藤工業(株) 赤坂作業所 所長  
平山 国弘

このたびは、新しい人生のスタート、心よりお祝いを申し上げます。さて皆様は、土木技術者として建設業界に一歩足を踏み入れたばかりで、期待と同時に不安も多いかと思います。そんな皆様に、私が考える土木技術者として持つべき「3つの思い」を紹介します。

1つ目は「ひとに対する思い」です。ご存知のように、建設工事は、現場事務所のスタッフ、協力会社の社員、職長、作業員と非常に多くの人々がかかわり、互いの協力があってはじめて成し遂げられるものです。

ところで、皆様も立场上、建設会社の社員として協力会社の皆さんに直接仕事を指示する場面もあると思います。そこで、忘れてはならないのが「協力会社の皆さんにご協力を頂いている」という謙虚な気持ちです。現場の所長以下、土木技術者は「工事にかかわる全員」が安全でかつ楽しく仕事ができるよう、常に気配りをしなくてはなりません。これが「ひとに対する思い」です。

2つ目は「ものに対する思い」です。ここで「もの」とは、すなわち自分がかかわっている構造物です。「もの」の命（品質）は、第一線の現場技術者の腕に委ねられています。そこで、自分がかかわった「もの」は、「自分が後々までも責任を持つ」という気構えで、品質については、「納得のできるまでとことんこだわり、絶対に妥協しない」、これがすなわち「ものに対する思い」です。

3つ目は「自分に対する思い」です。この業界に足を踏み入れた皆様は、大なり小なり大自然相手に大地に構造物をつくることに憧れてきたに違いありません。

しかし時が経つにつれ、仕事での理想と現実のギャップも見えて、失望することもあるでしょう。そんなとき、もう一度自分の仕事を見つめ直し、そして将来の自分の姿を想像してください。苦勞してやっと成し遂げた工事、完成の瞬間の言葉では表現しがたい気持ち、地元の方からの「おかげさまで便利になりました」という温かい感謝の言葉、自分のかかわった仕事を家族に誇らしげに語る自分。そのような経験を与えてくれるのが土木の仕事、そしてかけがえのない経験を持つ自分、そのような自分に対しての愛着。それが「自分に対する思い」です。

これからの長い人生、仕事上での色々な場面に遭遇すると思いますが、そのとき、心の片隅にでもこの「3つの思い」をとどめ、思い出してくれば幸いです。

皆様のご健闘に期待いたします。

土木技術者として持つべき「3つの思い」



五洋建設(株) 東京支店 土木部 部長  
梶見 順一

業界を変えるのは君たちだ

諸君、入社おめでとう。

今の君と同じころ、私はどうだったか思い出してみると「何かしらうれしくて仕方なかった」ような気がします。「勉強しなくても良くなった」というのがその理由ですが、それが大きな間違いであることはすぐにわかりました。

社会に出ると見るもの聞くものすべてが新鮮で、刻一刻が勉強でした。君もきっとそうなることでしょう。本当の勉強はこれからです。学校で教わったのはまったくの基本です。もちろん、それはあらゆる方向で役立つのですが、同時に自分の道に合わせ、自分の形に変えながら利用していくものです。「これまで教わったことをうまく使って生かす」、それが君の勉強です。君は今、第一歩を踏み出したばかりです。技術屋として、社会人として経験を重ねながら品位と誇りを持ち続けてください。

ところで、君が入社した会社は営利を求める組織です。会社からは利潤の確保を求められますが、社会は責任と信頼を君に要求します。今、土木業界は非常に厳しい状況にあります。公共工事の縮小に加え、談合問題や不正工事など、業界への社会の関心は年ごとに大きくなっています。今を乗り切るためには、古い体質と決別し、社会の信頼を呼び戻さなければなりません。それは業界を構成する私たち1人ひとりに求められていることです。

君たち若い技術者諸君には真摯な姿勢と熱意で仕事に向かってもらいたい。ガムシヤラに進むだけでなく、振り返って自分を見つめることも忘れないでください。加速度的に進歩している時代ですが、たまには一歩下がって自分を見つめてください。ただし、評論家にはならないように。言葉でなく行動が必要です。

私たちが生きる土木業界は重層構造になっています。ツリーの頂点にある元請と複数の下請負者が一体となった施工体系で顧客が求めるものを創造します。君はその一員として活動し、その結果、君の指揮で人が働き、会社が動きます。各々が責任を果たし、期待に違わぬ成果を出すために君の知識と能力が生かされます。その成果は君の評価になります。

君たち新入社員には最高の成果を上げてもらうため、会社は君たちに投資します。私たちは君たちが早く成長してくれるのを待っています。

では、がんばってくれ！